



自分でやるのか、グループの助けを得てやるのか④

Date: July 17, 2021 | BY Dr. Thomas Gordon

(L.E.T. book からの引用)

組織コンサルタントとしての私の経験上、ほとんどのリーダーはグループ・メンバーが持っている未発掘の知識やアイデア、創造力の豊富さを過小評価し過ぎています。また、私自身の組織での個人的な経験においても、「グループの知恵」を毎日のように目の当たりにしていました。ここで私が言いたいのは、グループ全体のリソースがすべての問題に活用されなければならないということではありません。異なるグループ・メンバーが異なる場面で活躍し問題解決の機能を発揮できれば良いのです。メンバー一人で良い時もあれば、時には数人を要する場合があります。組織全体が問題解決に取り組むことはごく稀です。

集団思考の考え方についての私の見解は、なにも私一人だけのものではありません。ゼネラル・エレクトリック社の元研究開発部のエンジニアであるK. K. パルエブ氏は、グループの「集合天才」が巨大な変電機のデザインに関わるいくつかのプロジェクトで貢献したことを書き残しています。

これらの成果は、直面するあらゆるタイプの問題に対して多様な能力が統合された組織力なくしては、達成されなかったでしょう…

…完全な才能を持つ個人を必要なだけ獲得することは不可能ですから、産業界のマネ

ジメントとすべての同僚は、彼ら自身や同僚も完璧ではないという事実に満足しなければなりません。